

**SS研 教育環境分科会 2020 年度会合**
**ポストコロナの学びのデザイン**

～ SS 研会員機関にご所属の方なら、どなたでもご参加いただけます ～

■ 日時 : 2021年1月21日(木) 9:30~12:00

■ 開催方法 : オンライン開催 (ZOOM)

■ 開催趣旨

教育環境フォーラム(2020年9月実施)に引き続き、コロナ禍のもとでの、そしてコロナ後の大学教育を考えます。オンライン教育の急速な導入と、その経験を今後の教育に活かすということを考えてときに、どうしても教育情報化の推進という点ばかりを考えがちです。しかし、教育環境をより広い視座で捉えたときに、オンラインと対面、同期と非同期、個人学習とグループ学習、デジタルとアナログ、など様々な座標軸で最適な環境を選択できる知見が必要です。

今回、効率化という意味での情報通信技術の、対極にあるかのような「不便益」についての特別講演、さらに様々な観点からのライトニングトークをいただき、会員の方々が教育環境の様々な座標軸を考える契機になればと考えています。

■ プログラム (予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。)

—敬称略—

9:20~	ウェビナー接続開始
	[司会] 重田 勝介 (北海道大学)
9:30~9:35	開催趣旨説明 隅谷 孝洋 (広島大学)
9:35~10:25 講演 40分 Q&A 10分	<b>特別講演</b> <b>「不便益システムをデザインする」</b> <b>川上 浩司 (京都大学)</b> 不便だからこそ得られることを「不便益」と名付けました。このときの「不便」とは、手間がかかり頭を使わねばならないこととします。そうすると、普通は、不便を解消する方向に技術開発が進みます。ところが、場合によっては解消してはならず、それどころか、あえて不便を導入して「不便益」を得るという方向で、システムをデザインすることもできます。そのような事例を紹介しますので、コロナ禍の不便な生活を経験した後での学びのデザインのヒントにしてください。
10:25~10:30	休憩(5分)
10:30~11:10 プレゼンテーション 10分程度/名	<b>ライトニングトーク</b> <b>「ポストコロナの学びのデザイン」</b> (発表順) <b>「デジタルな空間でリアルな授業を！ -インタラクティブ性を導入したオンライン授業の実践報告-」</b> <b>安武 公一 (広島大学)</b> <b>「テレワークによるwell-beingとは -草の根的に創出される活動について-」</b> <b>内田 弘樹 (富士通株式会社)</b> <b>「非同期学習設計のすすめ -対面授業の代替からの脱却-」</b> <b>平岡 斉士 (熊本大学)</b> <b>「米国：相互運用性のあるLERの最新動向 -学びと仕事をつなぐ学習記録の技術標準-」</b> <b>田中 恵子 (京都情報大学院大学)</b>
11:10~11:15	休憩(5分)
11:15~11:55 40分	<b>パネルディスカッション</b> <b>「ポストコロナの学びのデザイン」</b> <b>ファシリテーター：喜多 一 (京都大学)</b> <b>パネリスト：川上 浩司 (京都大学)、</b> <b>安武 公一 (広島大学)、内田 弘樹 (富士通株式会社)</b> <b>平岡 斉士 (熊本大学)、田中 恵子 (京都情報大学院大学)</b>
11:55~12:00	閉会挨拶 小林 真也 (愛媛大学)

(裏面に続く)

## ■ 参加方法

開催日前にお申込みいただいた方へ事務局から、Zoom ミーティングの URL、ID 等をお知らせいたします。

## ■ ご参加について

- 参加対象 : SS 研会員、CS 研会員、IS 研会員の各機関ご所属の方
- 参加費 : 無料

## ■ 詳細・お申し込み

SS 研 Web サイトからお申し込み下さい。

<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>



【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会(SS 研) 事務局  
〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター  
富士通(株) カスタマーリレーション部内  
Email: [ssken-office@ml.css.fujitsu.com](mailto:ssken-office@ml.css.fujitsu.com)  
URL <http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>